

No.04/秋号

地産・地消は 地元を愛する心が育てます。 やまぐち米を応援しましょう。



● やまぐちの「旬!」秋編 こめ&かき

● 農の達人達 ④

父から息子、孫へと育まれる
観光りんご園の農場経営

食・農・人シリーズ4

つくるレシピ...たまねぎ&しゅんぎく
たべるレシピ...こめ&かき

【保存版】カントリードライブマップ秋号

地域ブランド米マップ

お知らせ



県産農産物 販売協力店がOPEN

見つめて! やまぐち農産物愛用推進委員会では、『地元生産者が丹誠込めて作ったものを、地元の消費者が安心して食べる』...いわゆる「地産・地消」のライフ・スタイルを定着させる運動をすすめています。



このたび、地元農産物を集約した「やまぐちコーナー」を設置した「県産農産物販売協力店」第1号店が萩市に誕生しました。

「やまぐちコーナー」では、旬の県産農産物の販売だけでなく、産地情報の発信や消費者の意見・要望のとりまとめをすること、産地の顔が見える農産物づくりや、消費者の求めるよりよい生産内容に結びつける取り組み等を行っています。また、旬の農産物の試食などにも積極的に取り組んでいきます。

現在の県産農産物販売協力店は、萩市と宇部市に1店舗ずつですが、今後更に増える予定です。
販売協力店・やまぐちコーナーをぜひご利用ください。



販売協力店に 聞きました!



アトラス萩店
田村 公利 店長

販売協力店第1号店とは「コロンブスの卵」、つまり一番最初に何か始めるのは一番難しいんです。でも、とにかく一店舗やってみよう!

まずは売り方、陳列の仕方にこだわりました。店内に入って一番動線の良いところにブースを設け、かきや布、むしろなどを使用してディスプレイや商品の置き方に気を配っています。そして、一番肝心の地元の旬のものがいつでもあるように、年間計画をきっちり決めて仕入れています。最近の食品に関する問題が影響して、「地産・地消」のキーワードである「安全・安心」「生産者の顔が見える商品」に追い風が吹きました。おかげで売り上げも当初見込みから大幅にアップしました。こうなると売る方もかなり本気になってきますね(笑)。新しい企画もどんどん上がり、将来的には加工品も含めた「地産・地消」も考えています。

今は、「安全・安心」「生産者の顔が見える商品」がブームのようになってきました。しかし、しっかりしたコンセプトがないと、今後のこういった進捗は伸び悩むと考えます。そのため今からしなければならぬことは、様々なイベントなどとジョイントさせるなどして、広く「地産・地消」を早く浸透させること、そして生産者・流通業者・消費者の三位一体という循環性が必要だと考えます。

今後は販売協力店・第1号店として、スーパーにできる「スピードのあるエポリューション」を提案していきたいと思えます。



どうすればよく手にとってもらえるか配置を考える店員さん達。

やまぐち米のPRコマーシャルに 二井知事が出演!

9月17日、美祿市於福の「晴るる」栽培ほ場で、コマーシャル(CM)の撮影が行われました。今回は知事自らがやまぐち米をPR。生産者との集合シーンやおにぎりを食べるシーンが、終始和やかに撮影されました。知事は「大きな声を出せば笑顔がなくなるし、笑顔だと声小さくなる。結構難しいですね」と撮影後の感想。このCMは、10月より県内民放3社にて放送されます。



編集後記

食と農を見つめるミニ・レター「ぶちうま! やまぐち」も、早いもので今回で第4号。創刊が冬号で、各季節に発行してきましたのでもうすぐ1才です。そろそろみなさんの生活に定着してきましたでしょうか? 毎回来しみにしてくださいませている方もいるという噂を聞くと、事務局としてはうれしい限りです。今後のさらなる内容充実にご期待下さい。